中間支援活動助成(創設)事業 実績報告

団体名	(特非)地域チャレンジセンター・プラス	代表者名	(職名) 代表理事	(氏名) 大島 一晃
事業名	北神区初の中間支援組織設立事業 ~特に、社会に役立ちたい人が出会い、つながる場づくり事業			

< 事業実施実績 >

	相談業務 延べ回数/団体数	ネットワークの構築 ・情報提供 件数	人材育成 (講座開設等) 延べ参加人数/回数	書類作成指導 件数	その他 (調査研究等) 件数
R6 計画	-		60人 / 6回		-
R6 実績	28回 / 10団体	10件	35人・団体 / 4回		1件

< 効果と成果 >

神戸市北区は、ニュータウンと農村地域が混在しており、ニュータウンにおいては、ふれあいのまちづくり協議会などの制度疲労に加え、第1世代の高齢化や自治会・ふれまち協PTAなどでのまちの担い手が不足している。

ボランティアの入口を低くすることと参加の多様な形を地域に提案するなど、「旗を立てる」取り組みが必要であることを痛感した1年だった。

アイデア創出会議参加者による「場づくりの必要性」の声から、企画を変更し、場づくりセミナーを実施した(場とつながりの研究センターより、ゲストを紹介いただいた)ことで、これまでのNPO講座に参加する層とは異なる参加を得ることができたと感じるものの、まだまだ十分とは言えない。

しかし、場そのものが少ない、また見えにくくある北区において「場をつくること」の意味を問い直す価値があることは十分に感じる事ができた。

< 連携と協働の成果 >

神戸市地域協働局に、北区の地域活動に関わる人たちがゆるやかにつながる「まちづくりサミット(仮称)」を提案。地域担当職員とともに、事業実施に向けた計画を練ることができた。

今年度は、北区が独自に実施する「きたくろす」を優先するために協働実施はできなかったが、法人の取り組みや思いについて庁内に伝えることができたことに加え、今後の連携について大いに可能性が広がったと言える。

土業の非営利活動への意識啓発が今後必要と考えられる。それが達成するまでは、他団体のネットワークから人材供与が必要である。

今回は労務講座を開催するにあたり、隣市のNPO法人場とつながりの研究センターより推薦・紹介いただき、社労士・三谷文夫さんをお招きして講座を実施した。

<今後の展望>

当団体は、NPO支援や広報コンサルタントなどの専門家に加え、北神地域で活動する介護事業所や地域密着型の鍼灸院などの事業者、外国人支援や子育て・母親支援に関心あるメンバーで立ち上げた中間支援団体であり、メンバーの多様性と視点の多角性に基づく支援機能については強みであると感じている。

自治会からNPO法人化した事例をはじめ、地域ごとのキーパーソンや地域側からの動きがみえつつあり、さまざまな意欲的な人たちとつながりをもつことができたと実感している。

神戸市の「地域コーディネーター」北神区担当職員と連携し、北区まちづくりサミット（仮称）を計画する一歩目を踏み出すことができた。

農村地域の意欲的な活動が北区に多く、非営利セクターのみならず多様な主体がまちのことをともに考える契機になる予定だった。

しかし、北区の今年度の事業体系になじまなかったことで2024年度の実施はなかったが、継続的にコミュニケーションを取っていきたい。

一方で、行政施策の体系が行政主導型になりがちな現状において、それを打破することがよいのか、それとも当法人メンバーの多様な属性・強みを活かした企画へと、次年度はつなげていきたい。

<収支決算書>

(収入)

項目	金額(円)
中間支援活動助成金	500,000
参加費等	77,598
合計	577,598

(支出)

区分	項目	金額(円)	左のうち 助成対象金額(円)
直接 経 費	人件費	140,000	95,000
	謝金	140,000	122,712
	旅費交通費	127,580	114,658
	その他(通信運搬費等)	170,018	167,630
	小計	577,598	500,000
間接経費(一般管理費)		0	0
合計		577,598	500,000